ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
EU11A401	学校の組織づくり基礎 (Basic Theory of School Management and Organization)	基礎理論科目	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	1	教育学研究科	前期	木3,木4	日本語		複数(共同)

担当教員	氏名　清國祐二，山本遼，安田憲司 E-mail　ryamamoto@oita-u.ac.jp　内線　7526
授業の概要	学校組織に関する基本的な知識を習得し，学校における組織づくり（学校組織開発）について理解を深め，課題を発見し，具体的な対応を立案・検討する力を養う。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	組織に関する一般的な知識を習得する	○						
目標2	習得した知識を活用して，学校現場の課題を発見できる。	○		○				
目標3	学校組織の特徴を理解し，学校における教育課題を学校組織の課題として捉え，具体的な対応策を検討することができる。			○				
目標4	学校現場の事例を題材として問題点を発見し具体的な対応策を構想することができる。			○				
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）	4		6				

授業の内容	
1	学校における組織づくりおよび組織マネジメントの意義
2	「組織」とは何か：バーナードの協働体系論を中心に
3	経営理論を知る（１）：科学的管理法・人間関係論・目標管理論
4	経営理論を知る（２）：“社会的価値”を重視する経営
5	学校におけるリーダーシップ
6	組織と組織化～構造と過程への注目
7	学校組織文化の理解
8	知識創造論と学習する組織
9	学校の組織特性と組織マネジメントのあり方
10	学校組織開発の考え方
11	学校組織開発における学校評価の意義
12	ミドルアップダウンマネジメントの理論と実践
13	専門職としての学習共同体（PLC）づくりと校内研修
14	学校組織の一員であること（メンバーシップ）の省察
15	まとめ：学校におけるリーダーのあり方と組織づくりの実践の省察

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	調べ学修（文献，インターネット），プレゼンテーション，ディスカッション（ガイド付き・フリー），事例研究，ロールプレイング（机上訓練），リフレクションノート	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	授業資料の読解，疑問点の集約，該当回におけるプレゼンテーションの準備（20h）。
	事後学修	授業で学習したことを整理し，獲得した知識等の定着を図るとともに獲得した知識等を用い，課題解決の方策を考える(25h)。
	想定時間合計	45

教科書	教科書は指定しない。
参考書	佐古秀一・曽余田浩史・武井敦史『学校づくりの組織論』学文社，2011年，ISBN9784762021480。 浜田博文『学校を変える新しい力－教師のエンパワーメントとスクールリーダーシップ』小学館，2012年，ISBN9784098401260。 ピーター・センゲ，（枝廣淳子ほか訳）『学習する組織：システム思考で未来を創造する』英治出版，2011年，9784862761019。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	複数教員による多面的・総合的評価（受講態度，課題に取組む姿勢，討論への参加等）	70%	○	○	○	○						
	最終レポート（本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など）	30%	○	○	○	○						

注意事項	本授業においては，擬似的な学校現場を想定し，学卒院生と現職教員院生による相互作用的なコミュニケーションに基づく学び合いを重視する。とくに，各自のバックグラウンドの違いや経験値の差を積極的に利用し，自分自身のバイアスや固定観念を省察することに努めてほしい。
備考	現職院生・学部卒院生の混合のグループにおいて，経営のシミュレーションを考えるグループワークを行うなど，アクティブラーニングの手法を取り入れ，現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし，実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	清國祐二(高等学校)/安田憲司(中学校副校長，教育委員会事務局)
実務経験をいかした教育内容	高等学校教員（清國），中学校副校長及び教育事務所長（安田）としての実務経験を活かし，学校の組織づくりに関する要点と課題に関する指導を行う。